

島津貴久所用時雨の旗一旒ほか十六旒

【所在地】鹿児島市吉野町 9698 - 1 尚古集成館

【種別】県指定有形文化財（歴史資料）

【指定年月日】昭和 62 年 3 月 16 日



(複製)

島津家には、祖忠久は源頼朝の庶子という伝承がある。また、その誕生については次のような話が伝えられている。比企能員の妹丹後局は、頼朝の寵愛を受け子供を身籠もった。これを知った頼朝の正室北条政子は激怒して、丹後局を殺そうとしたため、彼女は上方に逃れた。摂津国住吉神社にたどり着いた時、夜もふけ、雨も降ってきたので宿を求めたが応じる者はなく、やむなく神社の境内にうずくまり、狐火に守られながら忠久を産んだ。

この説話にちなんで、島津家では雨を吉兆とし「島津雨」と呼んだ。天文 15 (1546) 年、島津貴久は、この故事にちなみ時雨の旗と源氏の旗印白旗を作成した。いずれも「藤原朝臣貴久」「天文十五年丙午五月吉日」という銘があり、島津家重物（家宝）として受け継がれてきた。時雨の旗は正徳 4 (1714) 年に島津吉貴が、享保 2 (1717) 年にその子継豊がそれぞれ 1 旒ずつ写を作成しており、享保 2 年のものは、薩摩で最も著名な御用絵師木村探元によって描かれたと伝わる。また白旗も、慶長 3 (1598) 年に島津義久が 1 旒、正徳 6 年に吉貴が 2 旒、写を作成している。この他、頼朝に平家打倒を勧めた文覚上人筆と伝わる八幡大菩薩旗が 1 旒とその写が 3 旒、丸十紋の幟 6 旒が伝えられている。戦国期からの軍旗がまとめて伝えられた例は少なく、歴史的・美術的に貴重な資料となっている。